

森崎剛史 学位論文審査要旨

主 査 片 岡 英 幸
副主査 久 留 一 郎
同 竹 内 裕 美

主論文

Adipose-derived mesenchymal stromal cells prevented rat vocal fold scarring

(脂肪由来間葉系間質細胞はラットの声帯癒痕化を予防した)

(著者：森崎剛史、岸本曜、楯谷一郎、河合良隆、鈴木良、辻拓也、樋渡直、中村達雄、大森孝一、北野博也、竹内裕美、平野滋)

平成29年 The Laryngoscope DOI : 10.1002/lary.26855

参考論文

1. Angiomyolipoma at the base of the tongue: A type of mucocutaneous angiomyolipoma

(舌根部の血管筋脂肪腫：皮膚粘膜血管筋脂肪腫の一種)

(著者：森崎剛史、森谷季吉、武信真佐夫、賀集一平、小山哲史、福原隆宏、北野博也、竹内裕美)

平成28年 Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology
28巻 522頁～524頁

2. 急速な増大傾向を示す甲状腺癌骨転移巣に対するチロシンキナーゼ阻害薬の使用経験

(著者：森崎剛史、森谷季吉、武信真佐夫、吉岡佳奈、北野博也、竹内裕美)

平成29年 日本内分泌・甲状腺外科学会雑誌 34巻 254頁～257頁

審 査 結 果 の 要 旨

本研究はラットを用いて声帯損傷急性期モデルを作成し、局所に移植した脂肪由来間葉系間質細胞（ASCs）の影響を組織学的な変化、遺伝子発現量変化の面から検討したものである。その結果、ASCsは声帯に内在する細胞に働きかけて塩基性線維芽細胞増殖因子（bFGF）、肝細胞増殖因子（HGF）の産生を促すことが判明した。また、ASCsはこれらの細胞増殖因子が持つ抗線維化作用によって声帯粘膜固有層への過剰なコラーゲン沈着を予防し、声帯損傷後の癒痕化を抑制することが示唆された。本論文の内容はASCsの声帯癒痕化予防を示唆するものであり、難治性疾患である癒痕声帯に対して細胞治療を応用した再生医療に繋がる橋渡しの研究として明らかに学術水準を高めたものと認める。